

第4回定例理事会

11月15日
本部会議室
出席理事・監事・特別参与28人

理事・監事が賛助会員にさらに呼びかけ

NPPO法人リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)を「認定NPPO法人」に引き上げて活動基盤を強化するため、日遊協の会員社に対してRSNの賛助会員への加入と年間3000円以上の賛助会費納入を呼びかけていくことを承

認した。当面、全理事・監事が賛助会員(個人)に加入することを確認した。認定NPPO法人は、運営組織及び事業活動が適正であって一定の基準に適合することで、所轄庁(都道府県知事または指定都市の長)の認定を受けたNPPO法人。認定NPPO法人になると、寄付する側もされる側も税制面でメリットが大きくなり、寄付金が集めやすくなる上、より有効に活用でき、基盤の強化も図れる。

総会での警察庁保安課長講話でも強調され、業界全体の重点課題となっている。パチンコ・パチスロ産業21世紀会加盟の14団体は既にRSNの支援を続けているが、今回の認定NPPO法人化に全面的に協力することになっている。

吉村泰彦氏が新理事へ

さる6月20日に死去した露木道男理事の後任理事候補に、全機連推薦の吉村泰彦氏が承認された。吉村氏は来年1月予定の臨時総会での承認を経て、正式に理事に就任する。吉村氏はJCMシステムズ(株)代表取締役社長で、現在、遊技場メダル自動補給装置工業会副理事長。

「防災林」活動に参加

東日本大震災の津波で被災した海岸防災林を再生させるため、林野庁の「『みどりのきずな』再生プロジェクト」への活動参加を承認した。津波で被災した海岸防災

林は青森県から千葉県にかけての約140kmとされている。プロジェクトは地元とNPPOや企業・団体等が連携して行なうもので、分別・無害化されたガレキを利用して防潮堤を再生し、クロマツ、アカマツ、カシワ等を植林していく。現在、仙台市若林区荒浜2ヘクタールについて活動希望者の公示が出ている。希望団体・企業は申請書を提出し、申請者多数の場合は面積調整、複数団体での連携実施が検討され、協定締結となる。

日遊協は現在、埼玉県嵐山町で「共生の森」事業(里山造成10年計画)を進行中だが、植林をすべて終わら、残り5年間の整備期間に入るなどヤマ場を超えたため、「『みどりのきずな』再生プロジェクト」を新たな社会貢献と環境対策の活動の1つにしていきたいとしている。

「車内放置」対策案の検討

ホール関係5団体の風営法WG(ワーキンググループ)、消費税WG、事務局連絡会の各協議状況が報告された。この中で、日遊協の担当で作成中の「子どもの車内放置防止対策マニュアル(案)」の内容が紹介された。11月28日の

RSNの「認定NPPO法人」取得の支援などを検討した第4回定例理事会



ホール関係5団体代表者会議に諮ってさらに検討を加える。

案の内容は、①経営者・幹部が行うべき事前予告5項目 ②店長が行うべき対策5項目 ③巡回のポイント ④熱中症の応急処置——となっており、さらに記載報告書や巡回点検等のチェック表が参考として添付されている。

新規に正会員2社、賛助会員3社の入会が承認された。11月15日現在、正会員346社(ホール114、機械69、販社115、景品10、その他38)、賛助会員64社、計410社と団体会員1(同友会)となった。(18ページに新規入会会員)

正副会長支部長会議

RSN、消費税など協議

正副会長支部長会議が11月15日、第4回定例理事会に先立って開かれた。深谷会長、安藤利彦、金沢全求、庄司孝輝(東京都・関東支部長)、韓裕、山田久雄各副会長、松谷明良・北海道、山口悟・中部、後藤信行・中国、樋口益次郎・九州の各支部長、篠原弘志専務理事、伊東慎吾常務理事が出席した。

NPO法人リカバリーサポート・

ネットワーク(RSN)の認定NPO法人化する案が説明され、日遊協会員に対してRSNの賛助会員への加入と年間3000円以上の賛助会費納入を呼びかけていくこと、当面、理事会全員が賛助会員(個人)に加入することを確認した。このほか、ホール5団体消費税WG関係の報告等があった。

東京都・関東支部役員会

計9回述べ66人派遣 ボランティア隊で総括

東京都・関東支部役員会が11月30日、日遊協本部会議室で開かれた。深谷会長、庄司孝輝支部長以下15人が出席した。ボランティア



東京都・関東支部役員会で挨拶する庄司支部長(立っている)

第3回 エッセー 絵手紙 コンクール 応募要項

募集中!

テーマ

「パチンコ・パチスロ 私の楽しみ方」
「パチンコ・パチスロへのメッセージ」

- エッセーは2000字以内でまとめて、なるべく電子メールで送稿してください。
- 絵手紙は市販のハガキに絵と文字で作成してください。
- 住所・氏名・年齢・職業・電話番号(携帯も可)を明記して、電子メールまたは下記事務局まで封書でお送りください。

募集期間 2012年11月1日(木)~2013年2月28日(木)

発表 2013年6月6日(木) 日遊協ホームページ <http://www.nichiyukyo.or.jp/>

賞品

エッセー—— 最優秀賞 旅行券30万円分1人 優秀賞 旅行券10万円分2人
佳作 商品券1万円分10人

絵手紙—— 最優秀賞 旅行券15万円分1人 優秀賞 旅行券5万円分2人
佳作 商品券1万円分10人

入賞作品の著作権は、日本遊技関連事業協会に帰属するものとします。

応募先及びお問い合わせ先

E-mail : bosyu@nichiyukyo.or.jp

社団法人日本遊技関連事業協会コンクール事務局

〒104-0033 東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル2F

TEL03-3553-4333 FAX03-3553-4334

応募された個人情報については、個人情報に関して摘要される法令や規範を遵守し、コンクールの目的以外には一切使用致しません。

主催 社団法人日本遊技関連事業協会

協賛 全日本遊技事業協同組合連合会・日本遊技機工業組合・日本電動式遊技機工業協同組合
全国遊技機商業協同組合連合会・回胴式遊技機商業協同組合・遊技場自動サービス機工業会

派遣、「環境フォーラム+パチンコ&パチスロフェスタ」(6月1、2日)への協力、皇居勤労奉仕(9月24~27日)、チャリティゴルフコンペ(11月2日)等、今年度の支

部活動を総括し、来年度の会員増加策を検討した。宮城県南三陸町を中心としたボランティアについては、3~12月に支部として計9回、延べ66人が派遣された。

誰でも、気軽に、応募しよう

選考基準など詰める 遊技機アワード

11月20日
本部会議室
出席委員等12人

来春に予定される遊技機アワードの表彰について、選考基準、選考方法、賞の分類などについて協議した。Web上での意見交換と合わせて、早急に内容を固める方向だ。

日遊協の遊技機アワード表彰は、昨年2月26日の「ばちんこ&パチスロフェスタ2011」、今年6月1日の「環境フォーラム+パチ



遊技機アワードを協議した遊技機委員会

ンコ&パチスロフェスタ2012」の中で行われた。昨年は24機種（パチンコ5部門、パチスロ2部門）、

今年は18機種（パチンコ4部門、パチスロ2部門）がそれぞれ表彰された。委員会では、遊技機アワードを今後も継続すること、できればパチンコ&パチスロフェスタと合同で毎年2月頃実施することを確認している。ただ、来年はパチンコ&パチスロフェスタが開催されないため、遊技機アワード表彰式は単独実施、または他のイベントとの合同実施となる。

中古機流通PT

11月13日
本部会議室
メンバー等16人

希望者には点数明示

試験不合格者のために

取扱主任者講習・試験（新規・更新）で不正解の多い設問について報告があり、合格率が極端に悪い時と良い時があることについて現状を分析した。試験に落ちた人

達などのレベルの不合格だったかを知りたいという要望が多いことに鑑み、今後全商協、回胴遊商を通じて、希望者には点数を明らかにすることにした。また通常更新と特例更新の区別を明確にわかるように、試験申込書の改定を行うことになった。

点検作業におけるホール管理者の負担が増加している現状があり、作業のスムーズ化をはかる方策が協議されてきたが、新たに「点検補助員制度」の骨子が提出され、今後検討を続けることになった。

広報調査委員会

11月6日
本部会議室
出席委員等8人

設問内容を詰める

ファンアンケート調査

「パチンコ・パチスロファンアンケート調査」の設問内容で詰めの作業を行った。作業はこれまでの設問項目の継続性を重視するとともに、お客様とホールの負担にも配慮しながら削除と新設が行われ、最終的に四十数項目となるもの。第4回定例理事会の承認を経て、11月下旬から12月中旬にかけて調査を実施する予定。

この調査は、お客様の遊技動向、機械の評価、業界への要望などを分析し、今後のパチンコ・パチスロ業界のあり方の参考にしていくためのもので、日遊協会員を中心とした全国のホールと来店したお客様に協力してもらい、毎年行われている。外部の団体にも協力を仰ぎ、都遊協青年部会、九遊連青年部会が前回に引き続き日遊協との共同開催の形で応じている。

HPのデータ強化も

日遊協ホームページで、パチンコ業界の各種調査データを集めて掲載する企画を協議した。業界関係者にも一般の研究者にも役立つための、広範囲な調査データの網羅を目標に、官公庁、業界団体、民間調査機関・企業で行われている各調査について、内容、有料か否かの公開状態、表示形式などを検討した。なお、現在の日遊協ホームページには「パチンコ産業の現況」の項目の中で、警察庁調べの店舗数・機械台数、日本生産性本部調べ（「レジャー白書」）の売上・参加人口・年間平均活動回数などが、それぞれ経年のグラフに加工されて掲載されている。

第5回人材育成フォーラム

「女性採用」のポイント 女性10人含む 人事担当25人

第5回人材育成フォーラム（人材育成委員会主催）が11月16日、日遊協本部会議室で開かれた。「女性が活躍できる組織づくり」をテーマに、「採用編」として（株）リクルートキャリア、リクナビ編集長、岡崎仁美氏を講演者に迎えた。会員企業の人事担当者（中堅層）として、女性10人を含む25人（17社）が参加した。

題して、①最近の女性のキャリア事情（男女間での就職・雇用・労働の推移） ②女性社員の採用における社内体制整備のポイント ③女性社員を積極採用している企業の成功例 ④求める人材・目標を明確に発信することの重要性——などを述べた。

岡崎仁美氏が「必要な方法」

岡崎氏は、「女性社員を採用するための本当に必要な方法とは」と

この後、参加企業の中からNE XUS(株)、(株)ヒノックス、東和産業(株)の3社が自社の取り組みを発表した。メイクアップ研修の実施、パワハラ・セクハラ相談室の設置、パートタイムやアルバイトの中から意欲の高い女性を正社員に積極雇用——などの実例が紹介された。



人事担当者たちを前に講演する岡崎氏

女性をテーマにさらに2回予定

最後に4〜6人が5チームに分かれ、フリーディスカッションを行った。ディスカッションは約1時間ずつ2回行なわれ、



講演に聞き入る人事担当者たち

1回目はテーマを定めずに情報交換の場に。2回目は「女性社員を採用する際に効果的だと思われる方法」をテーマに話し合った。

女性社員を対象にするテーマは、前回（7月27日）に引き続きのもの。この後、「職場環境編」（来年2月中旬予定）、「女性リーダー育成編」（同3月中旬予定）とさらに女性テーマが続くことになっている。

「合同説明会」で詰め

第5回人材育成フォーラムの直

人材育成委員会
11月16日
本部会議室
出席委員等15人

前に開催され、同フォーラムのスケジュール、担当者等の最終確認を行なった。12月9日に千葉市の幕張メッセで開催される2014年卒業予定者を対象にした「リクナビLIVE」(株)リクルート主催)に「パチンコ産業合同説明会」としてブース出展することについて、協賛企業、プログラム、講演者（企業社員）、パンフレット等を確認するとともに、12月1日以降のリクナビ・ホームページに、「パチンコ業界特集」をアップさせることを確認した。

風営法PPT
11月21日
本部会議室
メンバー等6人

政令改正作業で説明

風営法の法令等改正要望（規則及び内閣府令）の中で、賞品提供及び遊技料金について検討した。保通協の試験についての料金、ホテルの許可申請や遊技機の入替え等の申請に関する手数料等、進行中の政令改正作業について説明があった。

東京都・関東支部ボランティア隊第8陣

手ごわい「掘り起し」まだまだ支援を 復興はこれから

▽日時 11月20日～22日

▽場所 宮城県南三陸町十日町地区

▽隊員 隊長・長谷川利幸(コスモ・

イーシー(株)、副隊長・中澤辰弘(株)

千歳観光)、隊員・渡邊敦也、高橋純

子(株)千歳観光)、郡山隆之(コスモ・

イーシー(株)、九里孝裕、大塚信之

介、西村順也(ピーアークホールデ

イングス(株)

▽作業 資材(建築資材、生活用品
などの掘り起し、分別廃棄

資材の掘り起しは、一年以上雨
風にさらされた土砂は締まってお
り、その中にコンクリ片や瓦片、
石が埋没していて、スコップやつ
るはしがなかなか地中に入ってい
きません。ちよつとずつ崩しながら



女性も交えた第8陣のメンバー



掘り起し作業は、思いのほか困難な作業だった

らの作業のうえ見渡す限りの瓦礫
の中で、「まだまだ数年はかかりそ
うだ」と思いながらも、誰も手を
止めませんでした。

当初は、重機で掘り進めれば時
間短縮になるのではないかとと思
っておりましたが、ボランティアア
ーダーの「瓦礫とは思わないでくだ
さい。そこで生活していた方々の
私財だと思っしてほしい」との言葉に
考えを改めさせられました。土砂
の中から生活用具や衣料品・電化
製品だった品々を掘り起こすたび

に、津波の恐ろしさを感じました。

どこかテレビの中で見た光景が
そのまま目の前に広がり、瓦礫の
街の中、真新しい電柱が立ち並ん
でいるのを異様に感じつつ、ひた
すら作業に打ち込んでみると、少
しずつでも前に進んでいる実感が
湧いてきますし、また、継続して
活動する事が大事という思いにな
りました。震災から1年8か月を
過ぎ、未だ先の見えない復興支援
に参加している方々に大変頭が下
がる思いを抱きつつ、自分に出来
る事、参加する事の意義を感じた
2日間でした。

また、被災者の生活支援にも手
が足りない現状を踏まえると、協

会が主導し、このような社会貢献
を行う事に非常に大きな意義があ
ると思しますので、今後も継続的
に派遣し社会に発信してほしいと
願っています。(長谷川利幸)

**社会貢献・環境対策
委員会**
11月9日
本部会議室
出席委員等12人

**「WT」を立ち上げへ
エコマイスター制度**

新たな事業として、林野庁の「み
どりのきずな」再生プロジェクト」
活動への参加を検討した。これは、
東日本大震災の津波で被災した青
森県から千葉県にかけての海岸防
災林約140キロを復旧させる活
動。事業参加について定例理事会
へ提案することを決めた。

省エネと環境対策を推進する実
務者として、エコマイスター制度
を検討した。業界の省エネ対策を
実務面で支える人材を企業内に育
成する。研修や検定方法等につい
て、WT(ワーキングチーム)を
立ち上げて検討することになった。
台湾・高雄の太陽光発電所、台北
郊外のパネル工場を視察のため、
12月13～15日に委員会の研修旅行
を行うことを確認した。